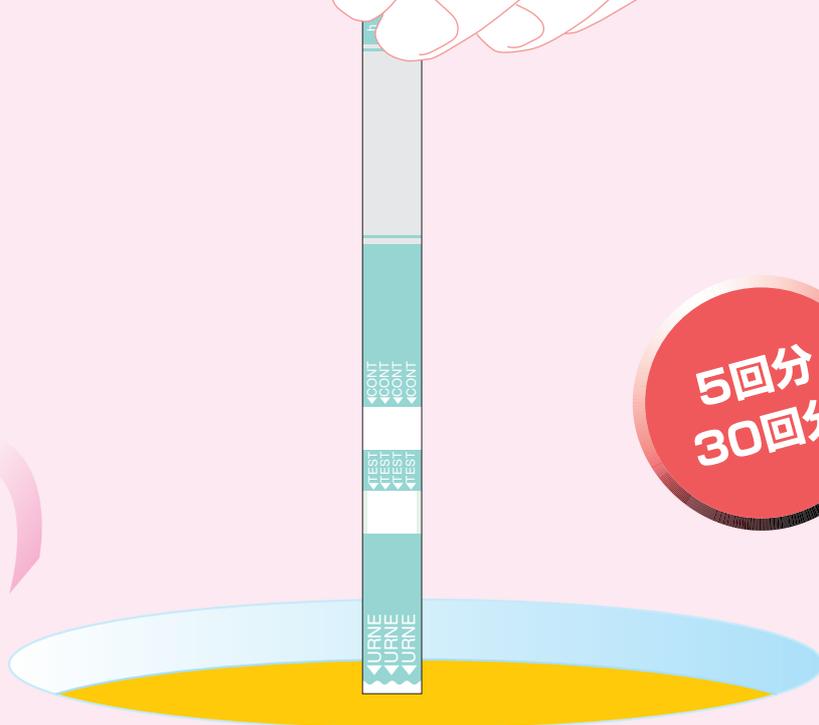


さらに、見やすく 感度アップ! あたらしいテストストリップです

尿試験紙感覚のhCGチェックです。



ヒト絨毛性性腺刺激ホルモンキット ゲステート®ST-II 尿中hCG検出用

特徴

- テストストリップを尿に浸すだけのワンステップです。
- 反応終了サインを改良。反応終了がはっきりわかります。
- モノクローナル抗体を用いた高感度法です (25 IU/L)。
- スリムで安心な防湿アルミパックです。
- 室温で保存できます。



●開発の経緯

尿中hCG (ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン)^{1)~3)} の検出は、妊娠診断の補助として広く用いられています。ゲステート®ST-IIは、モノクローナル抗体を用いた金コロイド免疫クロマト法により高感度で特異的に尿中hCGを検出することができます。従来品に比べ、反応終了サインが明確になり、反応終了時の判定がより見やすくなりました。また、操作はワンステップで、簡単に測定できます。

●使用目的

尿中ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン(hCG)の検出

●測定原理

金コロイド標識抗体を用いたイムノクロマト法

●形状・構造等 (キットの構成)

ゲステート®ST-II 5回分/30回分

テストストリップ 1回測定分中

抗hCGマウスモノクローナル抗体2.0µg
抗hCGマウスポリクローナル抗体感作金コロイド0.6mg

ヒト絨毛性性腺刺激ホルモンキット

ゲステート®ST-II

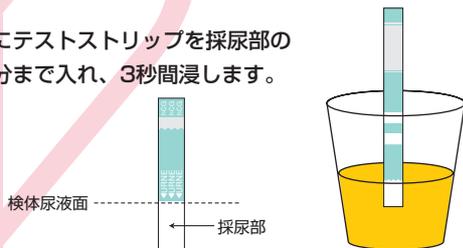
5回分/30回分

●操作法

①アルミパックからテストストリップを取り出します。



②被検尿にテストストリップを採尿部の波線部分まで入れ、3秒間浸します。



③テストストリップを被検尿から引き上げ、判定面を上に向け水平に静置します。(紙など吸水性のものの上には置かないでください。)

④反応終了サイン(ピンク色のライン)が明瞭な1本のラインとして現われたら反応終了です。

●判定法

反応終了サインの呈色を確認して、判定します。

●陽性 (+) : 反応終了サインとテストラインの両方が呈色する。



●陰性 (-) : 反応終了サインのみが呈色する。



●再検査 : 反応終了サインが呈色しない。



(印刷のため呈色は実際とは異なります)

●使用上又は取扱い上の注意

- ①被検尿はできるだけ速やかに検査して下さい。
- ②血清・体液などは検体として用いないで下さい。
- ③操作法に従い直射日光を避けて室温で検査して下さい。
- ④妊娠のごく初期や異常妊娠など偽陰性となることがあるのでその際は再検査して下さい。
- ⑤分娩後などでhCGの排泄が継続している場合やhCG産生腫瘍や胎状奇胎など偽陽性となることがあるのでその際は再検査して下さい。
- ⑥高尿酸尿で尿酸が判定面に目詰まりしたり、検体量が不足した場合などにCONT部分が呈色しないことがあるので、その際は再検査して下さい。
- ⑦判定が不明瞭な場合は再検査して下さい。
- ⑧試薬は指定された条件で保存し、有効期間を過ぎた試薬は使用しないで下さい。
- ⑨テストストリップは使用直前にアルミパックから取り出してください。
- ⑩結果に基づく臨床診断は、臨床症状や他の検査結果と合わせて担当医師が総合的に判断して下さい。
- ⑪テストストリップは焼却処分できます。

●貯蔵方法・有効期間・包装単位・製品コード

製品名	包装単位	貯蔵方法	有効期間	製品コード
ゲステート®ST-II	5回分	※1	18ヵ月間	E-SG81
	30回分			E-SG82

※1 直射日光を避け室温で保存

●ゲステート ST-IIデータ⁴⁾

感度

hCG濃度 (IU/L)			
0	25	50	100
-	+	+	+

黄体形成ホルモン(LH)との交差反応性

LH濃度 (IU/L)	
800 IU/L	1,600 IU/L
-	-

相関性

ゲステート®ST-II				
対照(イムノクロマト法)	陰性		陽性	
	陰性	50	陽性	0
	陽性	0	陽性	48

測定範囲

最小検出感度 hCG 25 IU/L
尚、hCG 10⁶ IU/Lまで抗原過剰による偽陰性は認められません。

妊娠尿/非妊娠尿での成績

ゲステート®ST-II		例数	陽性	陰性
正常妊娠	4 week	10	10	0
	5 week	10	10	0
	6 week	10	10	0
	7 week	10	10	0
非妊娠		25	0	25

[主要文献]

- 1) 谷沢修: 第22回日本産婦人科学会総会招請講演要旨, 1970.
- 2) N.Swaminathan, O.P.Bahl: Biochem. Biophys. Res. Commun., 40: 422, 1970.
- 3) Morgan, F.J., Canfield, R.E.: Endocrinology, 88: 1045, 1971.
- 4) 社内資料

本試薬のご使用にあたっては、製品添付文書をご参照ください。